

第1回富山県立大学看護系大学院等設置検討委員会議事概要

1	日時	令和2年9月18日(金) 16:00~17:00
2	場所	富山県立大学富山キャンパス教育棟教授会室
3	出席者	委員長 野田 八嗣 (富山県公的病院長協議会会長、済生会高岡病院長) 委員 加藤真理子 (富山県訪問看護ステーション連絡協議会会長) 〃 春山 早苗 (自治医科大学看護学部長) 〃 菱沼 典子 (公立大学協会看護・保健医療部会長、 三重県立看護大学理事長・学長) 〃 松原 直美 (富山県看護協会会長) 米山美智代 (富山県公的病院看護部長協議会副会長 (岡本里美 会長・委員の代理)、高岡市民病院看護部長) アドバイザー 尾形 裕也 (九州大学名誉教授、元東京大学政策ビジョン研究センター 特任教授、元厚生省健康対策局看護職員確保対策官)

4 協議の経過概要

(委員)

- ・ 県立総合衛生学院 (以下「総衛学」) の廃止は決まっておき、保健師、助産師を取得したい専修学校卒業の看護師が学ぶ場が富山県からなくなってしまう。ぜひ、専攻科 (保健師養成課程、助産師養成課程) を設置してほしい。
- ・ 専門看護師を養成する大学院も必要である。
- ・ 保健師・助産師については、最後の総衛学の保健師・助産師課程の卒業生が出た後、1年のブランクがあるが、どう対処するのか。
- ・ また、保健師・助産師の養成課程については、大学院という選択肢はないのか。
- ・ 大学院は修士課程だけか。大学の教員確保を考えると博士課程も考えたほうがよいのではないか。いずれにしても修士課程の設置には賛成

(事務局)

- ・ 保健師、助産師のブランクはいかんとともしがたい。ブランクを少しでも短くするためにも修業年限1年の専攻科としたい。将来、大学院での保健師、助産師の養成も検討したい。
- ・ 大学院については、将来は博士課程も検討したいが、まずは修士課程の開設について検討したい。

(委員)

- ・ 訪問看護ステーション連絡協議会で聞いてみたところ、大学院が出来たら行きたいという人もおり、社会人のニーズも十分あると思う。
- ・ 在宅ケアの需要は今後ますます増えるので、深い知識を持った大学院卒の看

護師の活躍の場は増える。また、大学院は、在宅看護分野の研究の拠点になると思う。

- ・ 地域包括支援センターには、保健師のコーディネーターが大変重要で、保健師（または、準ずる者）の配置が必須となっており、専攻科の設置を強く希望する。
- ・ 保健師、助産師の専攻科設置に取り組むことは賛成。ただ、富山県における保健師、助産師に関する課題が何で、どこを狙って養成していこうとしているのかが、資料や説明からわかりにくい。もう少しビジョンがほしい。
- ・ 専攻科を卒業した学生が、さらに大学院に行きたいと思わせるような方法が考えられるか。

(事務局)

- ・ 専攻科において、大学院の単位も取得できるようにするなど考えたい。

(委員)

- ・ 保健師、助産師の専攻科の設置を強く希望する。
- ・ より専門的な知識を身につけたい、最新の看護学を学びなおしたい現役の看護師が多くいる。大学院については、社会人修学が進むよう強く希望する。

(委員)

- ・ 保健師、助産師の専攻科の設置はぜひやってもらいたい。1年のブランクでも現場は大変。遅れることなくやってほしい。
- ・ 大学院については、リサーチマインドを持った専門性の高い、現場でリーダーシップが取れる看護師が必要であり、県の医療界のレベルアップにもつながる。ぜひ設置していただきたい。

(アドバイザー)

- ・ 大学院、専攻科とももったもた話であり、ぜひ進めてほしい。
- ・ その前提として、富山県の医療提供体制への貢献がある。県の特徴をどう考えるかが大事。例えば、富山県は人口当たりの療養病床が大変多いということがある。

(委員)

- ・ ご指摘のとおり、富山県は高齢者が多い。このことを踏まえて、看護の立場からどう対応していくかが大事。

(委員)

- ・ 専攻科や大学院への入学者は大卒者のみななのか。専門学校の卒業生は対象にしないのか。制度設計の際に考えておいた方がよい。

(委員)

- ・ 一度、社会に出てから大学院で学びたいというニーズがどれくらいあるか、調査してほしい。難しいとは思いますが。

(事務局)

- ・ 専門学校から放送大学を経て専攻科ということも考えられる。大学院設置の検討にあたっては、社会人枠の設定も考えたい。
- ・ 社会人のニーズの調査については検討したい。